

【第16回 文化と地域デザイン講座】

「塀の内と外をつなぐ対話を生み出す！ <刑務所アート展>の試み」

—ようこそ、関西に！ 風間勇助先生が奈良県立大学常勤講師に赴任されて—

◆ 2025年5月14日(水曜) 午後6時30分から午後8時30分まで(交流会あり！)

松本茂章(日本アートマネジメント学会会長)

【開催の趣旨】

文化と地域デザイン講座では、研究と実践の双方に挑む専門家をお招きしています。今回は、「刑務所」(矯正施設)のアート展を開催する試みについて、お話をうかがいます。

ゲストにお迎えするのは、奈良県立大学地域創造学部の風間勇助・専任講師です。「プリズン・アーツ・コネクションズ」の共同代表として、これまで2回の「刑務所アート展」を開催されてきました。

刑務所は、全国各地に設けられていますが、「塀の中」の様子は、地元の地域社会にもよく知られておらず、縁遠いところと思われがちです。しかし、人々が過ごしている場なので、文化や芸術と関係がない訳がありません。

風間先生は、2023年4月、東京から奈良県立大学に赴任され、関西に転居されました。「ようこそ関西に！」とお迎えし、異色の「研究者／実践者」が関西にいらっしゃることをご紹介いたします。

次のようなことに関心のある方々にお勧めいたします。

- ・ 刑務所のなかの文化芸術活動とは？
- ・ なぜ、受刑者や刑務官らを対象とするアート展を発案したの？
- ・ 現代社会のなかで、「アートが持つ役割」とは何か？ を改めて考えてみたい
- ・ こんな珍しい(?)、変な(?)、企画を考えた風間さんっていったいどんな研究者？

◆ 会場は元印刷工場です。まったく堅苦しくないので、気軽にお越しくださいませ。

【日時と会場】

2025年5月14日(水曜) 午後6時30分～午後8時30分すぎまで。参加費無料。

「本のある工場」にて(大阪市此花区西九条5-3-10) (会場は2階なので、階段を上ります)

(JR大阪環状線・阪神なんば線 西九条駅 から徒歩7-8分)

(終了後、簡単な食べ物・飲み物を提供して、交流会を予定しています) 差し入れ 大歓迎！

【内容とゲスト】

◆「刑務所アート展」とは……

刑務所で過ごす人たち、刑務所とかかわる人たちの芸術表現を集め展示することで、「塀の内と外」をつなぐ対話を生み出す活動。2022年から2回の展示を開催した。全国約30か所の刑務所から送られた250以上の作品を、延べ1000人以上の方に観ていただいた。

2025年5月中旬以降、第3回刑務所アート展(東京およびオンライン)を開催予定。

◆風間勇助(かざま・ゆうすけ)さん(奈良県立大学地域創造学部 専任講師)

1991年、静岡県清水市(現・静岡市)生まれ。大阪市在住。東京藝術大学にてアートプロジェクトの実践を学び、卒業後に民間シンクタンクに入社して、調査研究業務に従事。退職後、東京大学大学院・

文化資源学研究室に進学。「刑務所と芸術」をテーマに選び、アートマネジメントの観点から、刑務所（矯正施設）の「内と外」との対話の回路をどのようにつくっていくことができるのか、を考え続け、研究と実践を重ねている。日本文化政策学会理事。奈良市文化振興計画推進委員会委員。

◆企画・司会：松本茂章（文化政策学者／文化と地域デザイン研究所代表）

風間さんが大学院生時代に発表された「刑務所とアート」に関する研究を聞き、当時から「興味深い」と関心を抱いていた。しかし美術館等におけるオーソドックスな展示ではないので、「この研究で大学教員に正式採用されるのかどうか」と見守っていたら、奈良県立大学の常勤教員に就任された。静岡育ち・東京暮らしの風間さんが関西に転居され、「本のある工場」の文化と地域デザイン講座にも参加してくださった。「いつかはゲストに招きたい」と考えていたところ、25年5月中旬以降に第3回「刑務所アート展」が開催予定であることを知り、これに合わせる形で、急きょ、今回の講座開催を決めた。

【主催と申し込み】（事前申し込み制）

文化と地域デザイン研究所（代表：松本茂章）の主催。定員 15 人。

次の申し込み受付フォームから先着順にて受け付けます。 <https://forms.gle/MiGRExmW6WUgBnr4A>

あるいは、文化と地域デザイン研究所 HP を検索し、「5 月 14 日」の催しもの欄から申し込む。

※定員制なので満席が予想されます。キャンセルされる際は、必ず事前にご連絡をお願いいたします。

【本のある工場／文化と地域デザイン講座の概要】

1969（昭和 44）年に建てられた元印刷工場。築 56 年。亡き父から「形見」として相続した松本が、静岡文化芸術大学教授を定年退職して 16 年ぶりに関西に戻ったことを機に、リノベーションを行い、22 年 5 月、アカデミックスペースとして開設した。通常の講演会ではなく、ゲストと参加者が和気あいあいとなって意見交換する「楽しめるサロン」づくり、「文化的コモンズ」の形成を目指している。同講座は、「本のある工場」を拠点とする非営利な学術団体「文化と地域デザイン研究所」が主催する。文化と地域デザイン学会の例会を兼ねている。

◆本拠地「本のある工場」の外観（23 年撮影）／文化と地域デザイン学会の様子（23 年 5 月 18 日）

